

修士論文（要旨）
2016年1月

中国浙江省杭州市における高齢者の社会活動と役割意識
—拱墅区を対象として—

指導 渡辺 修一郎 教授

老年学研究科
老年学専攻
213J6901
王 洪ろ

Master's Thesis (Abstract)
January 2016

Social Activities and Role Awareness of the Elderly
in Hangzhou, Zhejiang, China

Honglu Wang
213J6901
Master's Program in Gerontology
Graduate School of Gerontology
Thesis Supervisor: Shuichiro Watanabe

目次

I.	はじめに	1
1.	研究背景.....	1
2.	研究の目的および意義	1
II.	研究の対象および方法	1
III.	研究結果および考察	1
IV.	結論.....	1

参考文献

I. はじめに

1. 研究背景

少子高齢化が進む中国においても高齢者の社会参加が求められつつある。そのために、高齢者の社会活動の実態をとらえ、社会活動の心理的要因とされる高齢者の役割意識の実態と社会活動との関連を明らかにする必要がある。

2. 研究の目的および意義

本研究は中国高齢者の役割意識の実態を把握し、高齢者の社会活動に対して何が影響しているのかを明らかにすることによって高齢者のあるべき役割意識を提案し、高齢者の社会活動の促進を図る。本研究はまだ福祉政策が不完全な中国に対して高齢者の健康的な自己意識を喚起し、主観的積極性を創り出す宣伝効果があると考えられる。

II. 研究の対象および方法

調査の対象については、拱墅区に在住する 60 歳以上のインタビュー調査できる住民を対象とした。筆者の個人的なネットワークを用い、各コミュニティ責任者の許可を得たうえで抽出した 200 人に調査を依頼した。調査項目は社会活動項目、役割意識項目、基本属性項目の三つの枠組みで構成した。本研究では高齢者の社会活動が役割意識と一定の関係を持っているという仮説を検証するため、男女別の基本属性と記述統計、社会活動項目得点と役割意識項目の相互の関連性を t 検定にて分析した。統計学的検定は統計ソフト IBM SPSS ver. 23 を使用し、有意水準は 5%とした。

III. 研究結果および考察

有効回答の得られた 175 人（男性 79 人、女性 96 人、回収率 87.5%）のデータを分析に用いた。高齢者の社会活動に有意な性差がみられた活動としては、地域行事の割合は男性より女性の方が有意に多かった。また、家庭内活動得点のみ、男性の方が有意に女性より高かった。男性について、社会活動に支障を感じている項目では「周囲の理解が得にくい」、「これまでのキャリアにふさわしくない」が多く、さらに、女性では「健康上に自信がない」が有意に多かった。役割意識の実態についてみると、「配偶者と死別した生活」との回答は女性の方が有意に高かった。また、家族のために、役割を果たしていると回答した女性の方が有意に多かった。一方、男性は「趣味活動を持つこと」が女性より有意に役割を感じていた。役割意識項目ごとに社会活動得点との関係を t 検定にて検討した結果、「子供達が結婚したり、独立した後の生活」を考えている対象者は社会活動得点平均値が有意に高かった。また、「伝統や慣習を伝える責任がある」、「若い世代と、積極的に交流すべきだ」と回答した群の社会活動得点は有意に高かった。また、「長寿は他人に負担をかける」、「家庭内のことに対して意見を言う」、「趣味活動を持つ」、「時代に遅れず、学習する」、「自分自身の生きがいをもつこと」と「組織や団体の運営」、「住民の相談相手」、「知識・技術や伝統を伝えること」、「規範やマナーの体現すること」を考えている対象者の社会活動得点平均値が有意に高かった。

IV. 結論

中国の男性の役割は職場にあると考える者が多く、仕事から離脱した生活は男性に対して役割を喪失しやすいではないかと推測される。それに対し女性は、家庭に対する役割意識が高く、地域社会に対する活動も積極的に行っていた。役割意識については「趣味活動を持つ」、「時代に遅れず、学習する」、「自分自身の生きがいをもつこと」、「住民の相談相手」、「規範やマナーを体現すること」は中国政府が提唱した「老有所学（生涯学習）」、「老有所楽（趣味娯楽）」と合致しており、また、生きがいを持つこと、対人交流、規範やマナーを重視することが社会からも期待され、このような考え方が社会参加に繋がると思われた。

参考文献

- 1) (財)自治体国際化協会北京事務所: 中国における高齢福祉. ClairReportNo. 3385-8(2009).
- 2) 王莉莉: 中国老年人社会参与的理论. 实证与政策研究综述人口与发展第 17 卷第 3 期(2011).
- 3) 姜妍: 老年社会工作相关理论方法
http://www.cssn.cn/shx/shx_bjtj/201411/t20141110_1395394.shtml (2014. 12. 21).
- 4) 清水晋作, 檜山昌弘: 現代日本における高齢者役割の探求-3 人の高齢者のライフヒストリーを通して. (2003).
- 5) 拱墅区民政局ホームページ:
<http://www.mca.gov.cn/article/zwgk/dfxx/201409/20140900706385.shtml> (2014. 12. 21).
- 6) 岡本秀明: 高齢者の活動に着目した日頃の活動満足度尺度の作成. 社会福祉学, 第 50 巻第 2 号 45-55(2009).
- 7) 仲村優一, 他: 現代社会福祉事典. 全国社会福祉協議会, 223 (1992).
- 8) 浜口晴彦編集代表: 現代エイジング辞典. 早稲田大学出版部, 190 (1996).
- 9) 小笠原祐次: 『老後づくり』と老人の社会参加. 全国社会福祉協議会老人福祉施設協議会編老後をひらく: 社会参加と福祉施策, 22-27 (1979).
- 10) 白澤政和・山縣文治: 老人の社会参加の実態と今後の方向-大阪市老人生活実態調査に基づいて. 社会福祉研究, 大阪市社会福祉研究会, 22-44 (1981).
- 11) 西下彰俊: 高齢期における社会参加の保障. 折茂肇編集代表新老年学 (第 2 版), 東京大学出版会・東京, 1505-1516 (1999).
- 12) 玉腰暁子, 他: 高齢者における社会活動の実態. 日本公衛誌, 10, 888-896, (1995).
- 13) 奥山正司: 高齢者の社会参加とコミュニティづくり. 社会老年学, 24, 67-82, (1986).
- 14) 菅原育子・片桐恵子: 中高年者の社会参加活動における人間関係-親しいさとその関連要因の検討. 老年社会科学, 29(3), 392-401 (2007).
- 15) 岡本秀明, 他: 高齢者の社会活動における非活動要因の分析-社会活動に対する参加意向に着目して. 社会福祉学, 46(3), 48-61 (2006).
- 16) 金貞任, 他: 地域中高年者の社会参加の現状とその関連要因-埼玉県鳩山町の調査から-. 日本公衛誌, 5, 322-333 (2004).
- 17) 佐藤美由紀, 他: 地域高齢者の家庭内役割と QOL の関連. 日本保健福祉学会誌 17(2), 11-19, (2011).
- 18) 内閣府: 平成 21 年度高齢者の日常生活に関する意識調査.
<http://www8.cao.go.jp/kourei/ishiki/kenkyu.html>, (2014. 12. 21).
- 19) 内閣府: 平成 24 年度団塊の世代の意識に関する調査.
<http://www8.cao.go.jp/kourei/ishiki/kenkyu.html>, (2014. 12. 21).
- 20) 内閣府: 平成 22 年度高齢者の生活と意識第 7 回国際比較調査.
<http://www8.cao.go.jp/kourei/ishiki/kenkyu.html>, (2014. 12. 21).
- 21) 张祥晶: 杭州市老年人口休闲状况调查与分析-基于一个小样本的分析. 全国人口纵横, (2006).
- 22) 橋本修二: 高齢者における社会活動状況の指標の開発. 日本公衛誌, 第 44 号 760-767(1997).
- 23) 冯涛, 香川幸次郎: 高齢者の対人的社会活動尺度の開発. 岡山大学大学院文化科学研究科紀要第 20 号, (2005).
- 24) 渡邊裕子, 他: 若者との交流による地域高齢者の自己の役割認識と社会貢献意識の活性化に関する研究. 山梨県立大学地域研究交流センター地域研究事業助成報告書, (2011).
- 25) 竹之下信子, 他: 地域在宅高齢者の社会貢献活動に関連する要因. 千葉科学大学紀要 6, 119-129, (2013).
- 26) 立松麻衣子: 高齢者の役割作りとインタージェネレーションケアを行うための施設側の方策-高齢者と地域の相互関係の構築に関する研究. 日本家政学会誌 Vol. 59No. 7503~515, (2008).
- 27) 菲海燕: 高齢者の社会参加に関する文献レビュー. 東洋大学福祉社会デザイン研究科社会福祉学専攻博士後期課程 1 年 (2013).
- 28) 片桐恵子: 退職シニアと社会参加. 財団法人東京大学出版会 (2012).